

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3370202206		
法人名	社会福祉法人 うずき会		
事業所名	グループホームうずき		
所在地	倉敷市玉島1279		
自己評価作成日	平成24年02月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202206&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声がいつも聞こえる、和やかなグループホーム作りを心掛けています。入居者の自己決定を大切にし、多くの決まり事を持たない、季節や自然を大切にしています。桜が見ごろな頃は「これから花見に行きましょう」「木陰が気持ちいいので今日は外でご飯、おやつにしましょう」など当日決定。少人数ならではの時間の過ごし方を心掛けています。生活の中でのリハビリをたいせつに、穏やかな時間を過ごしていただけるように、静かなまなざし、温かい声掛けを心掛けています。調理をホーム内で行っており、ホーム独自の副食の追加があったり、その時の希望で献立の変更があったりします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者と職員が笑顔で会話ができる」「自己決定ができ、ゆっくりとした時間の流れることができる」支援を目標に取り組んでいる。重度の利用者が多いが、調理、縫い物、ぬり絵など興味のあることや得意なことに取り組み、ゆっくりと過ごしている。周辺には木や花が多く、お天気が良い日には外で食事をするなど、日常的に戸外で過ごす時間を多く作っている。避難訓練、一日旅行、運営推進会議などに近所の方が参加することもあり、地域交流も図れている。昨年の台風水害では、事業所の敷地が国道より1m高いため、近隣住民の車の避難場所にもなった。そのことを機に、地域で災害対策についての検討も進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について話し合い、日々のサービスを振り返り理念が生かされているかどうか確認している。	うずき会の理念を目につく位置に掲示し、唱和して共有を図っている。さらにグループホーム独自の目標を決めて取り組み、実践できているか確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設の行事に多数参加、年数回、介護者教室に参加。地域の祭りで神輿が立ち寄り、祭り気分を満喫させてくれる。一日旅行に地域の人参加がある。	法人の地域交流スペースで、様々な行事が開催され、利用者も多数参加している。法人の祭りや一日旅行には、地域住民が参加しており、交流が図られている。散歩中には挨拶を交わし、コミュニケーションを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの相談に乗ったり、介護不安や負担軽減につながるアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や勘案事項について、その経過を報告し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。	地域住民、包括支援センター職員のほか、利用者家族も多数参加している。会の終盤には利用者も参加し、一緒にお茶を飲んだり話をしたりしている。利用者の状況を報告したり、家族からの意見を聞く機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めている。	包括支援センター職員を通して連携を図っている。市町村関係者とも連絡を密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外に出ようとソワソワしたり、いつもと様子が違う動きがあると、止めるのではなく一緒に散歩に出るなどして、自由に歩くことによって落ち着いてもらう。	身体に危険が及ぶような行為がある方に対しても、拘束をしない方向で検討をしている。やむを得ずベッド柵を付けるような場合には、家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、気づかないうちに不適切なケアになっていないか話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会等が主催する成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明している。重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実際などについて説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時、運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	運営推進会議や一日旅行など、家族の参加が多く、話し合う機会がもてている。面会の機会が少ない家族には、電話で連絡を取り合っ て意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月一回行い意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい関係を作っている	職員間のコミュニケーションがよく、何でも自由に話し合える雰囲気である。管理者や主任は、職員個々の事情にも配慮して働きやすい環境を作っており、アットホームな職場が、職員からも意見を出し易くしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けて支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう計画をたてている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や研修を通して事業所外の人意見や経験をケアに生かしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や、これまでの経緯についてゆっくり聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によってはケアマネージャーや他の事業所のサービスにつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に務め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お誕生日には昔から懇意にされていた近所の方がお祝いに来てくださったり、隣人に一緒に旅行に参加してもらったりいる。	一日旅行など、家族や知人と過ごす時間を作る工夫がなされている。訪問の機会が少ない家族には連絡を取り、来所を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、入院中の方をお見舞いしたり、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	要介護度5の利用者3名を始め、思いを把握するのが困難な方が多いが、職員は寄り添いながら思いを推し測るように努めている。無理強いをしないよう、反応を見ながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知ることで、その人への理解につながっていることを十分知り、個性や価値観等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	半年毎か変化があった時に計画を見直している。本人や家族からは日頃の関わりの中や面会時に意見を聞き、計画に反映させている。職員間で日頃から情報交換・意見交換を密にし、状況に即した計画を作成している。	計画をどう生かしてどのような成果が得られたのか書面で分かりにくい。良い支援が他者に評価していただけて、自分たちも確認しやすいよう、書類の使い方を検討されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能なときには職員が代行するようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。協力病院以外のかかりつけ医を受診するときには、基本的には家族に同伴してもらっているが、訪問看護師から日頃の様子を文書で医師に伝えてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・緊急時の対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、許せる限り職員が見舞うようにしている。また、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	入居時に、重度化や終末期のあり方について希望を聞いている。変化があった時には、その都度改めて話し合い、意向を確認している。まだ看取りの経験はないが、今後は本人や家族の希望に沿って看取りについても前向きに取り組んでいきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回定期的に行っている。	避難訓練に、地域住民が参加することもある。調査当日、消防署立会いの下、夜間を想定した訓練が実施され、法人内から多数の職員の応援が得られることを確認できた。スプリンクラーの設置も完了している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	縫い物や編み物、調理、ぬり絵など、一人ひとりが得意なことや興味のあることに取り組めるよう支援し、励ましや感謝の言葉をかけている。利用者のペースに合わせたり、本人が分かりやすい言葉を使うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調、様子をみながら、本人の希望を尋ねたりして過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらっている。本人のこだわっているスタイル(帽子やスカート)を把握し、その人らしさを保てるように手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっても、魚が嫌いな方、パン食がいい方、寿司が食べたい等と言う声があると急きょ献立変更になることがよくある。利用者と一緒に採って来た畑の野菜を使って調理をしたり、職員と利用者が楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。	法人内で統一された献立による食材が届けられているが、利用者の希望や状態に合わせて献立を変更するなどの工夫をしている。食べることを楽しめるよう、庭で食事をしたり、年2回の旅行では、食堂で好きなものを食べてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設に管理栄養士がいるので、栄養面では管理してもらっている。食事は個々に合わせて確認するようにし、ご本人の好きな物や食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面所に行っていただく。入れ歯は夜間こちらで預らせてもらっている。自歯のかたは月一回歯科受診をしている。職員は摂食・嚥下マイスター研修に全員参加し資格取得している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助している。排泄チェック表を使用し、尿意のわからない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	各居室にトイレがある。一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛け誘導をして、トイレで排泄できるよう支援している。夜間2時間ごとの排泄支援が安眠を妨げていると考えられた利用者に対しては、厚手のパットを使用し、間隔をあける工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分補給の徹底を行い、身体を動かすことの大切さを常に意識するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている方もいるけれど、嫌がる利用者には時間を掛けて安心感を持ってもらう工夫をしている。	週2回以上の入浴を支援している。入浴を嫌がるときには強要せず、時間を変えて入ってもらうか清拭や足浴などで清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、訪問看護師や協力医療機関との連携を図るようにしている。服薬確認を確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により外出の時は、食事やお茶等一緒に過ごせるようお願いしている。散歩には毎日出来るだけ出掛けている。年2回のバス旅行、桜見学、コスモス見学等出掛けている。	広い敷地にはハナミズキや桜などの木や花が多く、自然豊かな環境である。外に出やすく、周辺の散歩はもちろん、庭でお茶や食事をする機会も多い。年2回の旅行のほか、買い物に出かけたり、家族の協力を得て外出や外食の機会も作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族ごとに様々な意向をもっているが、自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげており、少額を手元に持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり面会に来られないご家族に近況報告をする時、電話をかわったり、手紙を書いてもらい同封したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを感じてもらえるように、ふんだんに使用している。手作りの調度品も飾られており、温かみを感じる。料理する音や食事の匂いで食欲がでます。	手作りの焼物や自然木など生かした内装は温もりが感じられる。共用空間は日差しが良く、明るい。調理をしながら利用者が見渡せ、対話や見守りをしながら過ごしてもらっている。調理の匂いや音で五感を刺激しながら過ごしてもらえる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とホールは一体的なつくりで、全てが視界に入りやすい。ソファやテーブル、いすの配置に配慮し、落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。	柱の木は、枝をそのまま残し自然の素材が生かされているのが特徴で、全体的に木のぬくもりが感じられる居室である。利用者は自分で生けた花や、家族の写真を飾るなど、好みのアレンジで過ごしやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		